

論点例

1. 教員養成フラッグシップ大学の目的と役割について

（社会・技術の急速な変化が進展する Society5.0 対応、先進性・先導性、教育課題への総合的・一体的な対応、新しい学校教育や教員養成の在り方の提案、ネットワークの拠点、成果の全国展開、新しい教員養成の評価方法の提示等）

2. 教員養成フラッグシップ大学における教育課程と教育研究について

（社会に開かれた教育課程、アクティブラーニング、カリキュラムデザイン、キーコンピテンシー、個別最適化、先端技術、遠隔教育、AI、データサイエンス、STEAM 教育、文理横断、EBPM、国内外の企業や教育機関との連携・協働、附属学校等の効果的な活用等）

3. 教員養成フラッグシップ大学における大学教員の養成・採用・研修について

（優れた大学教員を再生産する博士課程等の在り方、望ましい採用基準やスタッフ構成、クロスアポイントメント、実務家教員の在り方、計画的かつ育成的な教職員の研修やキャリア形成制度の設定等）

4. 教員養成フラッグシップ大学におけるガバナンスとマネジメントについて

（国・地方・社会との太いパイプ、外部評価の経営への適切な反映、経教分離、教学マネジメント、他の教育機関との連携・連合、戦略的な附属学校経営等）

5. 教員養成フラッグシップ大学の成果の発信・還元・共有の方法について

6. 教員養成フラッグシップ大学の指定の要件について

7. 国からの予算的・制度的支援の在り方について

等々

現状認識の確認と教員養成のフラッグシップ大学の必要性について

1. 現状認識

- AI やロボティクス、ビッグデータ、IoT といった技術の急速な発展に伴い、Society5.0 と言われる超スマート社会が到来。
- 学校教育においては、読み解き対話する力を踏まえた基盤的学力や情報活用能力等を育成するとともに、時代の変化に応じるだけではなく、新たな価値を創造できる力を育むことや、各発達段階において文理両方をバランスよく学んでいく視点も大切。
- 児童生徒が ICT を道具として活用することを前提とした STEAM 教育等の教科横断的な問題発見・解決的な学習活動の充実が必要。
- このような情勢を踏まえ、教師に求められる役割や資質・能力も変化。例えば、教師には教え導くだけでなく、一人一人の個別最適化された学びを支援する力が一層強く求められる。
- 「チーム学校」の考え方の下、先端技術を効果的に活用しながら、教師だけでなく様々な人たちが協働し、一人一人の学びを「支える」ことが重要。
- 教師の養成・採用・研修の強化及び外部人材の活用の推進が喫緊の課題。

2. 教員養成のフラッグシップ大学の必要性について

- 各教員養成大学・学部、大学院、附属学校が、上述の現状や諸課題に対し主体的かつ積極的に応えていくことは社会的使命。
- 一方、現状の教員養成大学の組織の規模、教育研究の実績、産業界等との連携の状況、今後の教員需要減（教員養成のスリム化）を勘案すれば、各大学が諸課題に単体で対応していくことは困難。
- 来るべき新しい社会に向けての学校教育の内容や教職課程の在り方については、既存の制度の特例や弾力化も視野に、スタッフやカリキュラムなどの指導体制を含め、一体的かつ試行的に検討することも必要。
- このため、Society5.0 に対応した教師の養成・採用・研修の強化に向けては、特定の大学に実行主体の中心（教員養成を先導するフラッグシップ大学）となる機能を持たせつつ、当該大学をネットワークの拠点として位置付け、その成果を全国に展開する方策を取ることが合理的であると考えられる。
- なお、最近の中央教育審議会答申や有識者会議報告においては、多様で柔軟な教育プログラムや機能強化に向けて、複数の大学の人的・物的リソースを効果的に共有するなど、関係機関との連携・協働・統合等が提言されていることに留意することも必要。